

患者管理システム

ダイナミクス
Dynamics

吉原 正彦

このソフトウェアは実地医療にともなったニーズの塊です

市販の医療事務ソフトウェア（いわゆるレセプトコンピューター・レセコン）は多数販売されています。そのほとんどのレセコンに入力されたデータはブラックボックスにされていて、単なる金銭出

納とレセプトという請求書印刷機能しかありません。LAN対応とうたっていても単にパソコンを複数接続しただけの会計事務ソフトウェアになっています。私も事務室のレセコンとは別に診療機の上に汎用パソコンを置き患者データを入力し患者情報管理を行ってきました。この二重入力無駄には常々疑問を持っていました。レセコンに入力されたデータは他の用途には使えないのです。私はこの現状に憤りを感じ、受付から会計、レセプト印刷まで診療業務の一切を統合的にこなすシステムを自作し運用を始めました。このシステムは実際の診療所のニーズから出発していますから、より実地に役に立ち、使いやすく、しかも安価に経費削減、事務効率化を実現したものです。せっかく入力した診療データですから有効活用しなければなりません。データは窓口会計、レセプト発行だけでなく、それを日常の医療にフィードバックし、医師にも患者にもわかりやすいデータへと加工できます。またLANを組んで診療機から常に参照できる（時には入力できるオーダリング）システムはきわめて有用です。検査データや健診データも加工し付加価値をつけて診療機の上からすぐ参照したり印刷でき、意味が倍加します。また、院外処方せんのほか、紹介状や主治医意見書、訪問看護指示書、診断書、検診報告書、薬剤情報提供書やカルテ表紙も同じデータベース上で作成し、レセプトや総括表と

同じプリンターで印刷でき、宛名シールなどの印刷も可能にしております。

当院では一九九七年四月からのデータが入力されています。受付はパソコンですませ、紙カルテの取り出し搬送をやめ、必要時のみ取り出しています。過去のカルテを探しまわることはほとんどなくなりしました。胸部X線写真や心電図なども検査日時がすぐわかるので取り出し時間も短縮でき、検査台帳をわざわざ作成しなくなりました。年末のカルテ表書き、病名記入が一括印刷できるなど院内雑用業務の合理化も可能になりました。また、画像データの表示も可能です。

電子カルテや電子レセプトが法的に認められたといっても、一般診療所のニーズに応えたもので、しかも適当な価格で配布しないと普及はしません。メーカー製の電子カルテは数百万円もの高い価格の上にレセコンと同様、本来自由にオープンに扱えるべき診療データもブラックボックス化されてしまっている。見栄えは良くても制約が多い使いにくいシステムなら潤沢な資金を持つ一部診療所かマニア的な医者のおもちゃになる程度にしか普及しないでしょう。医者が入力するので事務員が楽になるだけで診療へ役立つフィードバックもされず、単に保存スペースの節約に数百万円も投資をする余裕などわれわれ一般診療所にはありません。「紙カルテでできることはすべてできなければ」とか

「ペーパーレス電子カルテ」などと大仰に構えず、紙カルテの良いところは残しながら、単純、繰り返し、集計、検索、記録などコンピューターの得意なところを大いに利用して、結果として診療と経営に役立つツールになれば結構なことではないでしょうか。ダイナミクスは、すでにレセコン等で会計やレセプトを発行している所でも、患者管理、院内業務合理化に診療支援ツールとして使えるソフトであり、医事業務まで一元的に使えばさらに経費削減に貢献する便利なソフトウェアです。

ダイナミクスの導入にあたっては、もちろんコンピューターを使いまわすためのある程度のスキルは必要ですが、それ以上にユーザーの自ら使いこなそうとする強いウィル（≡三）が必要です。皆さんのウィルで、ダイナミクスを有効に活用して、より良い医療を展開していただければ開発者として本望です。